

## てつがく創造活動・プロジェクト型活動についてのお願い

みちる学年 教員・学年委員

林間学校も終わり、てつがく創造活動も子どもたちの問いや興味を中心に進めていく時間が多く取れる2学期となりました。1年生では、就学前教育をいかに引き取って生かした教育課程や学びを作っていくかを大切にしてきました。中でも、幼児期の「あそびつくした経験」は、さまざまなことへの興味や探究、集中することにつながります。こうしたことが、「あそぶように学ぶ／あそびから学ぶ」ことになることが大切です。てつがく創造活動は、いわば就学前教育から低学年教育を経た子どもたちの学びや経験をボトムアップして進めているものです。とはいえ、コロナ禍での中断の影響は小さくはありませんでした。

全員ではありませんが、取り組みが定まりきらない子や「発散する」だけになっている子もおり、上記でいうようなあそびにもなりきっていないこともあります。何となく「みんなに紹介する」と言うだけになっている側面が否めません。もちろん、そういった子だけでなく、しっかりと「あそぶように学ぶ」プロジェクトになっている子たちもいて、様々な活動をしています。そうした子たちのこれまでのプロジェクト型活動で、やりたいことに材料を準備するなどの支援がしきれず、個人の持ち寄りに大きく依存していることも多々ありました。

こうした現状を変えていくだけでなく、これをきっかけに、自立・自律的に自分たちのてつがく創造活動を運営していくことができるように、2学期のみちる委員とともに学年で話し合いを重ねています。その中での提案の一つが「学年費を自分たちで管理して使いたい」というものです。承認をいただければ幸いです。

### 1 ねらい

- 5年生として、プロジェクト型学習の内容をより充実したものにステップアップする機会とする
- プロジェクト型学習で、必要な材料などを支援することで、円滑にプロジェクトが進行するようにする
- お金の管理を学年委員が中心となって進めていくことで、自主性を育てていく

### 2 お願いしたい金額

- 10万円                      \* 現在のところ、5年生1年間で想定しています。  
   \* 残額については、6年生に繰り越していく予定です。

### 3 プロジェクトに配分する基準

みちる委員で話し合い、基準にしようとしている「良いプロジェクト」は以下の通りです。

- 計画性がある
- 協力して取り組める
- わからないことを教わったり、調べたりする
- 根性で進める
- ゴールを達成するための努力や発表の仕方を考えている
- 行動力がある
- 自利利他である

なかでも、「自分のしたいことを大切に（自利）」がプロジェクト型の活動で大事なことですが、お金を使うという場合は、「みんなにとっての意味にもなること（利他）」が基準の中心になると思います。

\* 何人が賛成したら良いのか、またいくらまでか、等については、希望を聞きながら、決めていく予定です。